

濱三郡俳句大會

東京の安藤姑洗子歓迎
かこ社安藤姑洗子歓迎
濱三郡俳句大會は既報の如く一昨五日後五時より同村鈴木山宅で開演したが出席者姑洗子外六十三名、兼題摘草、席題木の芽、通じて五句出句互選

好問村十好會主催東京のかこ社安藤姑洗子歓迎濱三郡俳句大會は既報の如く一昨五日後五時より同村鈴木山宅で開演したが出席者姑洗子外六十三名、兼題摘草、席題木の芽、通じて五句出句互選

の後安藤氏の四十分の講演あり午後十時閉會
最高點 金成喜山郎 (十一點)
次 渡邊何鳴 (十點)

肉を焼く匂ひ木の芽に流れけり
思ふまき草つみ歩るく日和哉
心持よく頬に打たせぬ木の芽風
足を投げて憩ふもたたり草摘女

忘れ居し人の戀しく草をつむ
木の芽吹く夕風軽く流れけり
降り初めし雨に明るき木の芽哉
雨合み木の芽真赤に夜明けたり

日影みつ土柔らかに草をつむ
魚を焼く香のはこゝと木の芽宿
草をつみ吹かれる風に髪呆けぬ
照り返す湖水眩しく草をつむ

社會の今日
自動車のゆれに眠たく
なりけり道のなかたへ
は菜の花つき
岡部 政造

酒 禮
赤井 嶽 男

艶女長兵衛
東京 新波南 東
(魚崎潮雲)

サア是れからが大變...
親分長兵衛を水野の屋敷へ
連れ去られた、是から直に
向島の寺西関心のところへ

借り申してと思つて居るが、水野でも此の事あるは二人三人斬り棄てたが必死
た、此の切込みに手前が、無敵の長兵衛の子分
第一に命を棄てますから先官沼助十郎が總大将の格で

手前を振つて二人を殺つたならば、片端から叫ぶの家来を七八人斬り伏せさせ
一人を半殺しにしてある切れと云ふ、女に惚れた關先と押寄せる勘十郎も
其手前を知つて居るから用が爲めに此の騒動を起した必死となつたが坂田の坂右

派に親分を取戻さぬや成 五百石の高祿を棒に振る位 勘十郎と刀を交へた、喜太郎も
らね、第一俺達が留守番だから馬鹿が出来たもの、相應に出来るやうになる
の役が出来なかつたのだから此方、一問一答に近寄つて、坂右衛門は水野の用人
と云ふ、皆夫れを承知見れば何れが、互に力力取りを盡して切結
で身支度し及びます。寺門内が騒がし、坂右衛門は切つた。



今朝最低気温水
九、一〇料理献立(はん
べんとほうれん草の漬汁
と卵の花井) 朴澤松操學
校
日用品段(果物ろい)
日用品段(果物ろい)
(藤家具の手入及選定法)
渡邊桃年
△正午 時報
△後〇〇五 A 尺八(一、
岩清水、中尾山山作曲、
片山雄山、二、春霞、金
森高山作曲、片山雄山、
關野生山、外)
△四〇〇 A ニュース
象 告知事項
△二〇〇 A 婦人講座(被
服の流行を科學的に觀る)
小川安朗
△三〇〇 A 氣象通報
△四〇〇 A ニュース
△六〇〇 A (子供の時間)
花まつり(一、お話花まつり、西村定雄、二、談
佛歌祭の歌、淑徳高等
女學校合唱團)
△六〇〇 A 講演(廢物利
用と發明) 小野俊一
△六〇〇 A ニュース 氣
象通報 告知事項 番組
廣告
△七三〇 P 宗教講座(釋
尊の降誕に就て) 召聖齋
主高階理仙
△八三〇 A 掛合斬(金の
なる國) 東清駒外
替中仲(鞍馬獅子) 富
本富前 外
△八五五 A 映畫物語(ニ
ューマン) 千石雷蹊
△九三〇 A 時報
△九三〇 A 奉天より
△九四〇 A ニュース 氣
象通報

開業御披露
過般の火災で弊店も類焼致しました
が一時凌ぎのバラックが出来ました
ので本日より開業する事になりました
の何卒火災後の御同情と舊來の御
愛顧にて倍舊の御眞實御引立の程お
願ひ致します。
尚ほ御出前も迅速に配達致します。
四月一日 酒 喜 屋
(女中さん数名入用)
電話一七一番

吉田眼科病院
平町紺屋町

開業御披露
過般の火災で弊店も類焼致しました...

魚 榮
仕出し
魚 榮
電話四二四番

電話番號變更
此度當店の電話番號左記の通り變更
致しましたから御諒承下さい。
電話三七七番
平驛前 阿部石炭店(用)
電話二二七番
阿部政右衛門(宅)

専門 陽明
淋病 皮膚病 婦人病
院 陽明
電話三七七番

川井内科診療所
電話一八一番

白馬の雪營業所
電話二四六番

優等賞入選
魚 榮
電話四二四番

高久病院
電話五三三番

専門 間部淋藥
電話三七七番

